

「地域における子ども・若者の社会教育のあり方を考える」講座

地域の人間関係の希薄化や子どもたちの体験格差など、子どもたちをとりまく環境の中で様々な課題が浮き彫りになっています。地域づくりや学校運営の中で今後さらに重要なポイントとなっていく社会教育の基本概念を改めて理解し考えながら、子どもや若者が育つための社会教育のあり方をワークショップ形式で学ぶ機会となりました。(受講者数 48名)

講義
演習

地域で子どもや若者と どう関係づくりを進めるか？

講師・ファシリテーター
文教大学人間科学部准教授

青山 鉄兵 氏



〈受講者アンケートから〉

- ・ 講義も演習の進め方も見事。笑顔を絶やさず受講者に接して素晴らしい。(一般)
- ・ 70才で本当にやりたかったことは「ユースワーカー」だと気づいた。(一般)
- ・ 社会教育そのもの、社会教育のあり方について整理することができた。(公民館)
- ・ 社会教育の強みである「気づいたら学んでいた、気づいたらできていた」という性質が、子どもや若者の生きづらさをなくす一助になっていると感じた。(学校)
- ・ 前半で「つながること」、後半で「バランスをとって活動する」ことの大切さを感じた。今進めていることに意味づけられた。(一般)
- ・ いつも自分がやっていること、ぼんやり思っていたことを言語化してもらえ、とてもスッキリした。(公民館)
- ・ 公民館(分館)の活用を検討したい。(市町村)
- ・ ユースワークについて自分の住む地域で調べたい。(国・県)

